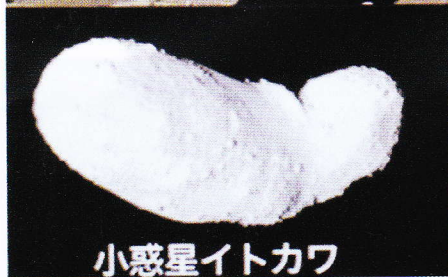
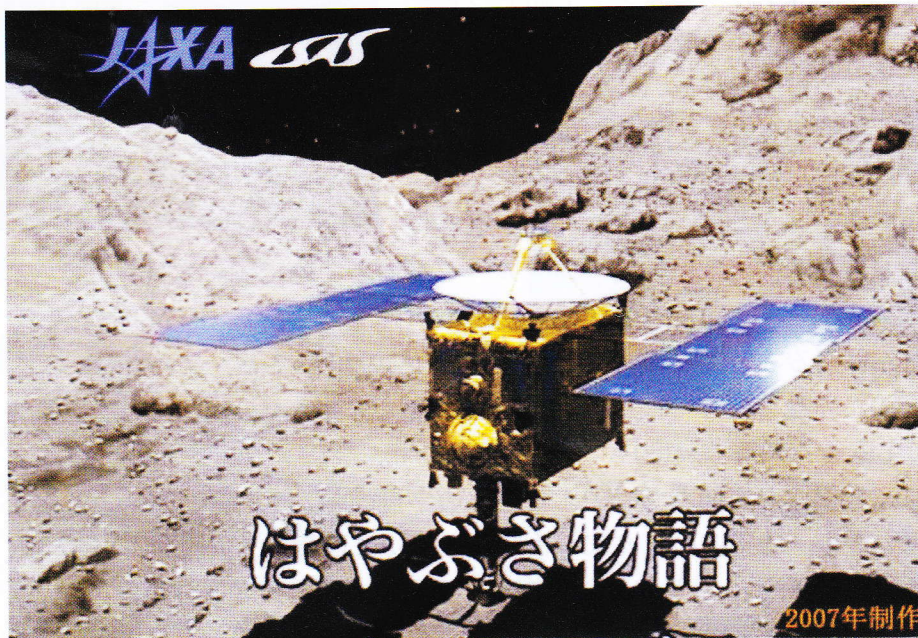


航空宇宙エンジニア

木村雅文の生涯



発行・編集 赤木博典

元 福山市立鷹取中学校 教諭
元 広島県教育委員会 教育部長

—— 宇宙開発に生涯を捧げた「木村雅文」さん ——

航空宇宙エンジニア・木村雅文さんの名前を付けた「Masafumi・小惑星」が誕生し、今大きな話題となっています。

福山市の霞小学校・鷹取中学校・葦陽高等学校、そして東京理科大学で学んだ木村雅文さんは1983年に日本電気航空宇宙システム株式会社 (NAS) の第二期生として入社。

小惑星探査機“すいせい”、“かぐや”、“はやぶさ”、“あかつき”などの軌道計画の開発に生涯を捧げ、とりわけ'03年に打ち上げられた“はやぶさ”の航行制御などで重要な役割を果たし、この分野の第一人者として世界から高く評価されています。

その“はやぶさ”は日本のロケット開発の先駆者・糸川博士の名を付した僅か540mほどの小惑星“イトカワ”に無事着地し、天体の微粒子を採取して'10年6月地球に帰還、人類史上初の快挙として世界中から注目されているのです。

きわめて、難解な軌道計算を独自の発想で開発したのが木村さんを中心とするグループであったのです。木村さんは“はやぶさ”の偉業を目にすることなく'09年8月、多くの人たちに惜しまれながら49歳で急逝。

木村さんは明るく、優しく、部下思いの温厚な性格の反面、意志強固で探究心が強く、優れた実践と理論を持って後輩の指導にあたり、木村さんの周辺には、自然と仲間が集まってくる、そういう“憧れの人”であったのです。

木村さんを偲んだ仲間たちは、木村さんの宇宙への人生を形に残そう。と小惑星への命名を思いつき、埼玉県天文家・佐藤直人さんに依頼し、佐藤さんが'97年に発見した小惑星に「Masafumi」として命名することを米国の国際天文連合が認めたのでした。

その惑星は火星と木星の間の軌道にあり、'11年夏には地球から見て真南の空に浮かぶという。

夢半ばで逝った木村雅文さんは自ら悠久の星「Masafumi・小惑星」となって宇宙を駆け巡り、私たちの福山否、世界中を宇宙から見守ってくれることでしょう。

木村さんの最後の仕事となった金星探査機“あかつき”は'10年5月打ち上げに成功、今は亡き木村さんたちが描いた軌道を金星めざして飛翔しているのです。

やがて人類未到の朗報が地球にもたらされることでしょう。



金星探査機「あかつき」

—— 今は亡き 木村雅文さんの生い立ち ——

木村雅文さんの生い立ちをご両親や先生からお聞きすることが出来ました。

両親ともに教師の家庭に生まれた木村さんは、幼少の頃から夏休みなどを利用して田舎の祖父母の家へよく泊まりに行っていたそうです。その頃から理科の教師であった祖父の影響を受け、いつの間にやら天体に興味を寄せるようになったという。

霞小学校のグラウンドで夜空の天体観測を始め、鷹取中学校時代は観測に熱中する傍ら、東京の望遠鏡のレンズの専門家と文通を重ね、レンズの知識を修得。葦陽高校時代は東京理科大学の機関誌などを読んで独学、理大の天文研に憧れ夏休みには一人で大学を訪れ大学生と一緒に研究。

憧れの理科大学の応用数学科へ入学し数学と物理を専攻し、天体観測の設計・製作、望遠鏡の製作などに励み学会発表などで活躍したのです。

子どもの時から理科と数学は得意で絵や音楽にも興味を寄せていたようです。

友だちと競い合うことは嫌いで天体観測などは友だちと助け合いながら楽しんでいたという。どちらかと言うと控えめな性格で、それでいて自分には殊の外きびしく、今どきの良い子ちゃん風の子どもではなかったようです。

今は亡き木村さんの子ども時代を涙ながらに語られるご両親のお話に「自立・共生」の子育ての秘伝を感じたのです。

鷹取中学校の恩師・栗原潔先生は雅文さんの死を悼むご両親宛の親書の中で、「中学生時代と変わる事のない、人への思いやりや優しい人柄が多くの人を動かし、あんな素晴らしい仕事を成し遂げたのです。

人の道を貫き通した強い信念、そして友と共に生きた雅文君のことは終生忘れることはないでしょう」と、と病身の我が身を案じながら語られ、彼を偲ぶ短歌を寄せられたのです。

不肖、私が1953年教師として初めて赴任した鷹取中学校はクラブ活動の盛んな学校で運動場と体育館はユニフォーム姿の生徒と先生でゴった返し、理科室では生徒たちが理科の実験を、音楽室から流れるブラスバンドの音で学校は満ち溢れていたものです。

木村さんが夜空の運動場で天体観測に熱中していたという話を聞き、何十年ぶりに学校を訪れ夜空に浮かぶ金星を眺めながら独り静かに在りし日の木村さんをしのんだのです。

子育てとは、子どもの可能性を最大限に伸ばすことなのか！。



八ヶ岳を眺望(南アルプス) 木村雅文・画



天体観測中の少年時代

—— 小惑星 Masafumi の誕生 ——

(16853) Masafumi = 1997 YV2

Masafumi Kimura (1959-2009) was a Japanese aerospace engineer who calculated the spacecraft orbit and contributed much to the success of 'KAGUYA' as leader of design of the high-gain antenna that allows communication between the moon and the earth.

今は亡き福山市出身の航空宇宙エンジニア・木村雅文さんたちが携わった小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰ったサンプルの分析が始まり、地球の起源や生命の誕生に迫る快挙として世界の注目が集まっていることはすでに紹介したところです。

生涯を捧げた木村さんの“宇宙への情熱を形に残そう。”と同僚たちが立ち上がり、1997年に天文学家・佐藤直人さんが発見した小惑星に「Masafumi」と命名することが国際天文学連合によって登録されたのでした。

その小惑星は太陽から5億kmも離れた軌道を6年間の周期で巡り、写真の撮影は至難の業と言われていたのですが、木村さんと親交のあった台湾中央大の天文学者阿部新助さんによって撮影に成功、木村さんの遺族に写真画像が送られて来たのです。

木村雅文さんの一周忌を迎え木村家のぼだい寺に石碑が建立されました。

石碑には一小惑星「Masafumi」に続いて、火星と木星の間に浮ぶMasafumiの軌道を描いたプレート。そして父、滋さんが書いた「星を愛し、星となる、小惑星『MASAFUMI』宇宙を巡る」という銘が刻まれたのでした。

雅文さんはこの福山の地から宇宙の彼方のMASAFUMIを往来しながら常に私たちを見守り永遠に生きてくれることでしょう。

—— 人は死して 名を残す ——

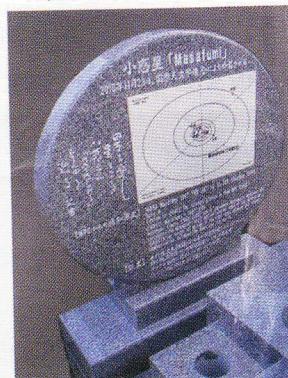


(在りし日の木村さん)ー中央ー

(16853) Masafumi 木村雅文



阿部新助 (台湾 国立中央大学 天文研究所)



(永遠に生き続けるMASAFUMIさん)

(写真・資料提供 一木村 滋・富士子一)